説明的文章

# 段落の要点・関係の捉え方

1 どんな生物でも、一人で生きていくことはできない。生物は必ず生態系の中で生きている。だから生物にとっては、生態系が崩壊せずに安定して存在し続けることが大切だ。そのためには、いろいろな種類の生物がいた方がよい。

2 たとえば、ある年に干ばつが起きたとしよう。そのとき、乾燥に弱い植物しかいなければ、その多くは枯れてしまう。そのため、光合成による有機物の生産は激減する。すると、光合成で作られる有機物に頼っていた動物なども激減し、中には絶滅するものもいるだろう。そうして、生態系は大きなダメージを受ける。

3 一方、乾燥に弱い植物だけでなく、乾燥に強い植物もいたとしよう。その場合は干ばつが起きても、光合成による有機物の生産はそれほど減らない。（　　）、動物などが絶滅することもない。生態系は大きなダメージを受けることなく、干ばつがすぎれば、再び以前のような生態系が回復するだろう。さらに、乾燥に強い植物も一種でなく何種もいた方が、生態系が安定する。

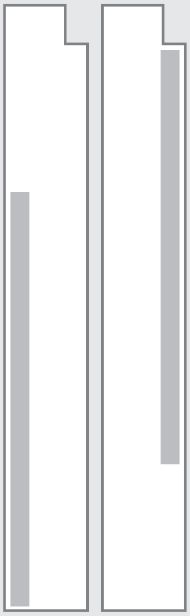
4 このように、種は異なるが、役割は同じ生物が複数いることを「冗長性」という。このような冗長性も含めて、いろいろな種類の生物がいることを「生物多様性」という。

（更科功『若い読者に贈る美しい生物学講義』ダイヤモンド社　による）

**段落の要点・関係**

各段落の**要点**（中心となる内容）を捉えるには、次のような箇所・表現に注目するとよい。

・各段落の初めや終わり。



・「まとめ」や「筆者の意見」を表す文。

（例）つまり、……。　このように、……。
……と思う。　……べきだ。

各段落の要点や、段落の冒頭の接続語などに注目すると、段落どうしの関係がわかりやすくなる。

**例題**

1段落と2段落の関係を正しく述べたものを選びなさい。

**ア** 1段落の事例に対して、2段落では対照的な事例を挙げている。

**イ** 1段落では一般論（いっぱんろん）を述べ、2段落では筆者の主張を述べている。

**ウ** 1段落で述べた内容を、2段落では具体的に説明している。

〔　　〕

**確認テスト** 本文を読んで、問いに答えなさい。

**(1)** 2段落と3段落を通じて筆者が説明しようとしている内容として最も適当なものを選びなさい。

**ア** 生物は生態系の中で生きており、どんな生物も単体で生きていくことはできないこと。

**イ** 生態系が崩壊せずに安定して存在し続けるためには、いろいろな種類の生物がいた方がよいこと。

**ウ** 植物は光合成によって有機物を生産しており、この有機物によって動物が生きていること。

〔　　〕

**(2)** （　　）に当てはまる言葉として適当なものを選びなさい。

**ア** そのため　**イ** けれども

**ウ** たとえば　**エ** ところで

〔　　〕

**(3)** 次の中から、本文の内容に**当てはまらない**ものを選びなさい。

**ア** 生態系が存在し続けるためには、生態系の中にさまざまな種が存在するほうがよい。

**イ** 生態系の中に存在する種が、それぞれ他とは異なる役割を持っていることを冗長性という。

**ウ** 生態系にさまざまな種がいることを生物多様性といい、生物多様性が低いほど生態系は不安定になる。

〔　　〕